

たんけん はっけん 浅間台のまち ～ 松原商店街の人気の秘密を探ろう～

授業のポイント

思いや願いを豊かに表現できる子の育成を目指して

学習内容を押さえつつ、目の前にいる子どもの思いや発想を生かした単元の構成をすることにより、子どもたちは自分から主体的に学び、学びを豊かに表現していくことができる。

授業改善に向けての考察

子どもに身につけたい力について（特に表現力・発表力に関して）

子どもの発想の流れを大切にしたい単元構成

まち探検をし、「松原商店街にはどうしてあんなに人がたくさんいるのだろう」という思いを多くの子どもがもった。そこで小単元「まちで働く人」の学習内容を「松原商店街の人気の秘密を探ろう」とし、お店で働く人の工夫を見つめさせたいと考えた。人気の秘密を探る学習では、呼び込みの声の元気よさや歩行者天国・駐車場の存在など様々な気づきをすることができた。その中で子どもが立ち止まったのが「100ものお店があるのに22しか加盟していない松原カードは果たして工夫になっているのか」という疑問であった。お店や商店街事務所の人に聞くうちに子どもが自分の考えをもつようになっていった。自分で調べたことを根拠としてもつことで、きちんとした自分の考えをもち、それを発表することができたと思われる。丁寧に子どもの思いを見取り、学習内容を押さえながら単元構成を柔軟に行うことで、子どもの発表したい、話したいそしてみんなの考えも聞いて納得する答えを見つけたいという意欲をもつことができたのではないだろうか

地域で学ぶ・地域に学ぶことのよさ

自分の考えが本当にそれでいいのか、そしてほかに資料はないのだろうかなど子どもが探求心を発揮したとき、何度も足を運べる松原商店街は最良の学習材であった。地域の学習材を生かすよさを改めて感じている。知り合いの人が働いていたり、浅間台小の子どもだからと忙しい中、丁寧に答えてくださったりすることもありがたいことであった。まちの人の温かい思いにふれることで、まちの一員としての自覚をもつきっかけにもなったように思われる。

授業コントロールに関する改善点

子どもの発想から生まれた学習課題であったが、本時においても子どものそれぞれの思いをしっかりと見取り、それぞれの子どもの認識の変容をみとめる必要があった。そのため座席表などで、それぞれの子の気がりや対立点を把握し、授業展開を予想して本時に臨んだ。

しかし、学習開始25分頃のS児の発言「できたばかりのお店は建物のローンなどもあり、松原カードに入るのはまだ大変だと思っている」という時点で大きな学びの瞬間を逃してしまった。この発言には「損をしてまでなぜ松原カードを出すのか」という疑問に対して「加盟していない店の人も入りたいと考えている」という前提が含まれる発言である。この前提は彼が多くの店から聞き取りをして、実感としてもらったものである。この発言に「どうしてそう思ったの?」「どういうこと?」と切り返しをしていけば、最後の「サガミヤさん」の話をもっと深く掘り下げて聞くことができたのである。子どもたちは「N商店は300万円も出していること」でそこまでしてくれているという感想を書いていたが、「多くの商店が加盟店になりたい」と思っているという聞き込みから得た事実が、まちの人の思いを知る大きなポイントとなった転換点であった。つまり、授業での対立点「損をしてまで松原カードを出す意味」「加盟店が少ない現状」を考える上で、貴重な子どもの社会認識を深める発言であったと思われるのである。

子どものこだわりで学習材や単元構成を変更していくことで、その学級らしい学びをつくっていく時の教師としてのおもしろさを感じることができたとともに、子どもの考えにより沿いながら展開を変える授業コントロールの大切さを改めて感じた研究授業であった。